

# 中京大学 アセスメント・ポリシー（学士課程）

## 【評価の目的・実施方法】

- ① 科目の学修到達目標の達成状況を可視化するために、教員は原則すべての科目にルーブリック<sup>\*</sup>評価基準を設定する【授業科目レベル】
- ② DPの達成状況を可視化し、教育の質を保証するために、学部は各科目で養われる主な学力を示した履修系統図を設計する【教育課程レベル】
- ③ 学修過程を可視化するために、学生は学士教育課程外で養われた学力を含めた学習ポートフォリオ<sup>\*</sup>を利用する

	項目	指標	主な手段	評価レベル
入学判定 (APを満たす人材)	入学時学力	知識、(技術)	入学試験	
		思考力・判断力	面接、小論文	
		主体性・協調性	高校時ポートフォリオ <sup>*</sup> 、調査書	
単位認定 進級判定 (CPIに則る学修成果)	単位認定	科目の学修到達目標の達成状況	ルーブリック <sup>*</sup> 評価基準	授業科目レベル
			試験	授業科目レベル
		学修過程	学習ポートフォリオ、授業アンケート (履修科目の学修内容、学修時間など)	教育課程レベル 授業科目レベル
卒業判定 (DPを満たす人材)	学士力	DPの達成状況	修得単位、卒業論文	教育課程レベル
	社会人基礎力	就業必須資格の取得	資格試験	教育課程レベル
		進路状況	就職、進学	教育課程レベル
		学士教育課程外で養われた学力	学習ポートフォリオ <sup>*</sup> (社会活動、留学、教養学習など)	教育課程レベル

(\* 現在検討中)

【達成すべき水準】 教育課程レベルにおいては「DPに定められた学修成果」、授業科目レベルにおいては「シラバスに示された学修到達目標」を達成すべき水準とする。

【評価結果の活用方法】 教育課程レベルにおいてはカリキュラム改革、履修ガイダンス手法、FD活動等、授業科目レベルにおいては授業方法の改善、シラバスの見直し等に活用する。

【検証の実施体制】 科目担当者及び各学部による省察と改善を踏まえ、自己点検・評価委員会にて全学的に検証を行い、必要に応じて教育質保証会議より改善指示をする。